

試験結果報告書

大塚化学(株)製剤品SBU

1. 目的

上水タンク内面にパイロキープTSの塗装を行ったとき、塗料に含まれている溶剤成分による臭いと水への溶出が懸念される。そこで、試験片を用いて塗膜の硬化時間及び水への影響(溶剤成分の溶出)を調べた。

2. 実験方法:

2. 1. 試験片の作成

(A)繊維強化セメント板(150×70×2 mm)に以下の工程(1日1工程)で塗装する。

工 程	塗付量 [kg/m ²]
(素地調整)パイロキープTS-900E	1.0
(下塗り)パイロキープTS-2000 プライマーC	0.2
(中塗り)パイロキープTS-2000	0.15
(上塗り)パイロキープTS-2000	0.15

(B)ガラス板(150×70×2 mm)にパイロキープTS-2000を両面に塗装する。(1回塗り)

2. 2. 乾燥条件

塗装後の乾燥は、常温と低温の2箇所で行う。常温は開放中、低温は密閉中で乾燥する。

2. 3. 塗膜の硬化時間測定方法

塗装後の試験片(A)を用いて、重量と鉛筆硬度を測り、塗膜の硬化時間を調べる。

2. 4. 溶剤成分の溶出量測定方法

養生期間が、1, 2, 3, 4, 5日間の各試験片(B)を脱イオン水の入ったビーカー中に漬ける。それぞれサランラップで密閉し常温中1日間浸漬後、水に溶出した溶剤成分と空気中の溶剤成分を測定する。

また官能試験として水のおいも調べる。

測定装置:ガス検知管、ガスクロマトグラフ

<試験条件>

脱イオン水 500ml

塗膜浸漬面積 112cm²

空気容量:約 770ml

